

令和 6 年度事業報告

(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

- 1. 基本方針 健康を支える人づくり
- 2. テーマ 東海医療学園のブランド力を高める
- 3. 重点目標 1) 魅力ある学校づくり
 2) 地域貢献
 3) 運営基盤の強化

1) 魅力ある学校づくり

- (1) 教育理念・目的・人材育成像の明確化と共通理解
- (2) 学校運営

① 理事会・評議員会、学校運営会議等開催

本学園の業務執行に関する重要事項について、理事会、評議員会を開催したこと。

・理事会

開 催 日	議 事 等
令和 6 年 5 月 23 日	令和 5 年度事業報告、決算・監査報告など
令和 6 年 10 月 10 日	寄附行為の変更申請について
令和 7 年 3 月 21 日	令和 7 年度事業計画、予算案、人事異動など

・評議員会

開 催 日	議 事 等
令和 6 年 5 月 23 日	令和 5 年度事業報告、決算・監査報告など
令和 7 年 3 月 21 日	令和 7 年度事業計画、予算案、人事異動など

・学校運営会議

毎月 1 回開催（8 月除く）。PDCA サイクルに基づき、重点目標の達成度などの確認を行った。

- ② 学校関係者評価委員会 5/18（木）を開催。問題点の把握、改善等の実施、その結果についてホームページ等で公表を行った。
- ③ 教職員の健康管理、ハラスメント防止など、働きやすい職場環境づくりに注力した。
- ④ 私立学校法改正に伴う寄附行為変更申請手続きを行い、静岡県より認可を得た。

(3) 教育活動

- ① 感染症対策など、衛生面の管理を継続して実施した。
- ② デジタル教科書の使用等、ICT 教育を導入した。
- ③ 職業教育の質を高めるため、毎月、カリキュラム会議、教育会議を開催。また、職能団体や関連企業の役員、有識者等による年 2 回の教育課程編成委員会を開催した。（令和 6 年度実施日：第 1 回 7/9(火)、第 2 回 11/12(火)）
- ④ 分かりやすい授業への取組みとして、教育活動の自己点検・評価を推進、個々の教員による自己点検、学生による授業評価、校長による授業参観等による授業の改

善向上に努めた。

⑤ 教職員の資質向上を目的に学内セミナーの開催、外部での研修等へ参加した。

ア. 4/3(水)に学内研修会を実施した。

テーマ：「明るく健康な職場をつくるために」

講師：小菅将樹（アヴァンテ社会保険労務士事務所代表）

イ. 5/24（金）～26（日）：全日本鍼灸学会第73回学術大会（宮城県仙台市）に参加した。

ウ. 8/8（木）、8/9(金)：第47回東洋療法学校協会教員研修会（主管：関西医療専門学校（大阪府））に参加した。

⑥ 進級率・卒業率の向上、国家試験・AT認定試験の合格率向上を目指し、指導を行った。

ア. 国家試験合格率（新卒者）は、あん摩マッサージ指圧師が100%、（20名中20名合格）、はり師90.0%（20名中18名合格）、きゅう師90.0%（20名中18名合格）であった。

イ. 中途退学の防止に対しての取組みを行ってきたが、令和6年度は7名の退学者（1年5名、2年1名、3年1名）があり、退学率7.3%となった。

理由は進路変更7名、健康上の理由1名で、内1名は復学者であった。

ウ. 休学者は1名（2年）で、理由は体調不良によるものであった。

エ. 原級留置（留年）者5名で全て3年生であり、理由は卒業試験不合格によるものであった。

オ. 新入生プレスクール（入学前教育）を3月に2回実施した。

⑦ その他の教育活動として以下のことを行った。

ア. 4/30(火)にレクリエーション大会を開催し、教職員、学生間の親睦を深めた。

イ. 10/27(日)に学園祭を開催し、地域住民との交流に努めた。

ウ. 卒後臨床専攻コースを継続して行った。

⑧ 放課後の課外演習であるゼミナールを継続実施した。

対象は全学年で、令和6年度テーマは「伝統鍼灸」「手技療法」「現代医療」「訪問治療」「ビューティ」の5コース。

⑨ 特別授業を前期、後期と2回実施した（昨年は後期のみ）。

対象は全学年の希望者。

開催日	時 間	テーマ	講 師
8/28(水)	10:00～ 12:00	昨今の東洋療法業界について	中村 聡 氏 (日本鍼灸師会 会長)
	13:00～ 15:00	世界もあなたも、可能性に満ちている	石島 裕太 氏 (JICA 海外協力隊)
3/5(水)	10:00～ 12:00	鍼実技講習	金子 尚史 (本校 非常勤講師)
	13:00～ 15:00	指圧応用講習	神田 浩士 (本校 非常勤講師)

⑩ 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー認定試験について、令和6年度理論試験は4名が受験し（現役3名、既卒1名）で合格者は2名であった。

⑪ 自己点検・評価及び学校関係者評価

令和5年度学校運営、教育活動等について、自己点検・評価を実施し学校関係者評価委員会を開催（5/16（木））し適正な評価を行った。最終的に報告書にまとめ、ホームページ等で公表した。

(4) 学生支援

① 進路支援として以下のことを実施した。

ア．担任、就職担当者と連携し個別相談。

イ．求人先を招聘しての就職ガイダンスの開催（11/20(水)）。

参加事業所は26件（静岡10件、東京9件、神奈川4件、愛知2件、千葉1件、大阪1件）であった。

ウ．就職情報アプリ「キャリアマップ」を継続導入し、求人、職場見学等の情報提供等を円滑に行えるよう就職サポートをした。

② 学生、教職員の健康管理として以下のことを行った。

ア．学校保健安全法に基づく学生および教職員の健康診断の実施（5/22(水)）

イ．B型肝炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス等感染症の予防に努めた。

ウ．臨床心理士協力のもと、1年生に対し「健康チェック」を実施。学生の心身の状態を把握し、早期対応に努めた。

③ 学校生活、学費面での支援や相談を行った。

ア．臨床心理士による「学生相談室」の継続。

イ．学費面での支援として、以下の制度の利用紹介、対応を行った。

（ア）日本学生支援機構奨学金

（イ）専門実践教育訓練給付金

（ウ）高等教育の修学支援新制度

（エ）国の教育ローン等、一般の奨学金以外の融資情報

（オ）校友会奨学金制度

（カ）納付金分割などの対応

（キ）企業奨学生制度の継続

(5) 教育環境の整備

① 1号館、防犯カメラを新型のものに交換し、安全対策の向上に努めた。

② 想定外の豪雨による浸水対策として、屋上の防水工事を行った。

2) 地域への貢献

(1) 地域交流イベント（学園祭）、を開催し、地域住民との交流を行った。

(2) 伊豆伊東高校と教育連携により、スポーツ健康類型コースを選択した生徒に対し、スポーツ概論の授業を本校教員が担当した。

(3) 小田原アリーナで開催されている「全国定時制高校バドミントン大会」にて、ATコースの学生が中心となりサポートを行なったこと。また、近隣高校の部活動の現場実習も担当した。

(4) 伊豆山土石流災害の被災者等への支援活動として、伊豆山「いずさんち」において、熱海鍼灸マッサージ師会員とともに温灸体験、コグニサイズなどのサロン活動を行った。

(5) 臨床センタースタッフを中心に、熱海市福祉協議会主催の「福祉まつり」に参加し東洋療法の啓蒙に努めた。また、熱海市主導の生涯学習人材バンクに登録し、

市民を対象とした健康づくり教室を担当した。

3) 学校運営基盤の強化

定員充足率 100%に向けた広報・募集活動

- ① 広報室を中心とした効果的、効率的な広報活動を行ったが、和 7 年度生は結果として令定員の 6 割の 24 名の入学者に留まった。
- ② ホームページ、SNS (Facebook、Instagram、Twitter、LINE) 等を利用して情報発信を行った。
- ③ オープンキャンパス、高校生対象入試説明会等、年間を通じ開催したこと。

名 称	開 催 日
オープンキャンパス 13:00～15:30	4/21(日), 5/19(日), 6/9(日), 7/21(日), 7/28(日), 8/4(日), 8/25(日), 9/8(日), 10/27(日), 11/10(日) 1/19(日) 2/2(日), 3/23(日)
高校生対象入試説明会 10:30～12:00	5/25(土), 6/22(土), 7/15(祝・月)

- ④ 進学相談会への参加
業者等主催の会場形式及び高等学校内の進学相談会に積極的に参加した。
- ⑤ 受験雑誌、学会等媒体へ広告掲出を行い、学校の認知、資料請求者数の増加を図った。
ア. 業者による高校生向けの受験雑誌媒体への広告掲出。
イ. 学会誌、業界誌等への広告を掲出。
ウ. 伊豆箱根鉄道大場駅への駅看板広告を設置。
- ⑥ 静岡東部、中部地区、入学実績校等を中心に高校訪問を行った。
- ⑦ 出前授業を継続し、県東部の 3 校（裾野高校、加藤学園高校、富士宮東高校）にて実施した。
- ⑧ 卒業生との連携による広報
ア. 卒業生紹介制度の継続
校友（卒業生）からの学生紹介制度を継続して実施した。紹介者には謝礼として 2 万円の商品券を贈呈。また、該当入学者には教科書、実習費から 5 万円分減免という対応を行った。
イ. ホームページ上で卒業生の開業先の紹介をした。
ウ. 「卒業生に会いたい」企画を継続し、卒業生の活動を発信した。
- ⑨ 出願の利便化を図るため、インターネットによる出願を継続した。